発 行 所
札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX（011）706-5007
E-mail:furate@med.hokudai.ac.jp
http://www.med.hokudai.ac.jp/˜alum-w/
編 集 人　田中　伸哉
発 行 人　浅香　正博

北大医学部同窓会新聞

「穴滝」　　　　鈴木（すずき）　大介（だいすけ）（76期）

CONTENTS

(1)・会長再任並びに新入会員歓迎のご挨拶
……………………………………浅香　正博
・北海道大学病院長を拝命して……寳金　清博
(2)・平成27年度総会報告及び新入会員歓迎会報告
・平成27年度総会資料
(3)・新入会員ご挨拶……………………吉田　苑永
・第92期生名簿
・新入生ご挨拶
……………………………………佐野　風輝人
(4)・平成28年4月　1年次入学者名簿
・平成28年4月　2年次進級者名簿
・平成28年4月　2年次学士編入学者名簿
・教授退任ご挨拶……瀬谷　司　安田　和則
(5)・教授就任ご挨拶……………………西浦　博
・春の褒章、叙勲
児玉　譲次　大河原　章　清水　昇
・フラテ祭2016　9月開催
(6)・平成27年度　医学研究科・医学部医学科
各賞受賞者…………菊地　浩吉　豊嶋　崇徳
・平成27年度フラテ研究奨励賞報告
……………………………………秋田　弘俊
・受賞の喜び…………………………新宮　康栄
(7)・受賞の喜び…………加藤　将　川堀　真人
真鍋　治　渡部　昌
・平成28年度
フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集!!
(8)・平成27年度同窓会会長賞報告
・ノーベル賞授賞式に出席…………笹森　瞳
・医学部戦没同窓生追悼式のご案内
・特別寄稿…………………………今村　昌耕
(9)・理事会・評議員会報告
・新役員、評議員・予備評議員名簿・告知板
(10)・告知板・事務局からお知らせ
(11)・新刊書紹介
(12)・新刊書紹介
・北海道医学会からお知らせ
・平成28年度
同窓会員名簿記載事項確認のお願い
・ご逝去者・一面の写真説明・編集後記

会長再任並びに新入会員歓迎のご挨拶

医学部同窓会会長　浅香（あさか）　正博（まさひろ）（48期）

本年3月に開かれた北海道大学医学部同窓会評議員会にて会長に再任されました。これから2年間会長業務に専心いたしたいと考えておりますのでご支援をよろしくお願いいたします。北海道大学医学部創立100周年まであと3年に迫って参りました。医学部には創立100周年記念事業委員会が立ち上がり、活動を開始しております。事業遂行のための寄付目標を10億円と定め、百年記念館建設と医学部独自の基金の創設に全力を挙げることになりました。医学部同窓会でもまもなく100周年事業後援会を立ち上げ、医学部が行おうとしている事業を全面的にバックアップする予定でおります。同窓生の皆様におかれましては100周年事業の重要性をご認識いただき絶大なご支援をお寄せいただけるよう衷心よりお願い申し上げます。

本年卒業された医学部92期の皆さん、同窓会に入会していただきありがとうございます。北海道大学医学部同窓会は皆さんの入会を心から歓迎いたします。北海道大学医学部同窓会は現在6300名もの会員を擁する大きな組織に発展しています。これから皆さんは医学部同窓会が年に3回発行している同窓会新聞、隔年ごとに発行している同窓会名簿と同窓会誌を受け取ることになります。皆さんは同窓会の一員としてこれらの編集に自然な形で携わることになりますので協力をよろしくお願いいたします。医師という職業は、患者と直接向かい合い、その病気を治していくという大きな責任を伴っています。ですから、医師になったと同時に他の職業にはない大きな義務を負うことを十分に理解していただきたいと思います。学生時代は自分の評価を自分で行うことができましたが、これからは自分で評価できる部分は少なく、患者や医療スタッフなど第三者によって評価されることが多くなります。患者の命を預かる重要な職業ゆえに、大きな義務も生じてくるのです。人から感謝されることが実感できる医師という職業はやりがいのある仕事ですので将来年を経て人生を振り返ったときに充実感を感じることができるようそれぞれがしっかりとした人生設計を行って前に進んで行っていただきたいと思います。

北海道大学病院長を拝命して

寳金（ほうきん）　清博（きよひろ）（55期）

本年4月1日より、北海道大学病院長を拝命いたしました。本年3月末日で、3年の任期を終えるつもりでしたが、さらに、3年の任期を務めさせていただくこととなりました。改めて、北海道大学医学部同門会諸賢の皆様のご支援をお願い申し上げます。

今後3年間の病院長の任期を考えますと、すでに、3年の経験があるがために、むしろ、その責務を具体的に明確な重さとして感じ、受ける圧力は、より大きくなっております。今後3年の俯瞰した際に、私が考える幾つかの方向性を3つに要約して述べたいと思います。

1、橋渡し再開発

本院を含む大学病院の多くは、現状では数年以内に危機的な財務状況を迎えることが予測されます（大学病院の不都合な真実）。したがって、平成38年前後から開始予定される次期北大病院再開発計画の実行までの10年後につながる橋渡しとなるべき病院のソフト・ハード面の現状変更を必要最低限の範囲で行なわなければ、次期の再開発を迎えること自体が難しくなることも想定されます。そこで、次世代につながる『橋渡し再開発計画』を考える必要があります。

2、ガバナンスの強化

この問題は、従来は、病院長の情報収集力、危機管理能力に主たる要因があるとされてきました。しかし、実際には、これだけでは解決できない問題が指摘されております。すなわち、制度設計から来る本質的な問題があります。大学病院は「分権化された小さな部局」の集まりという構造的リスクを今後も内包し続けることになります。医療安全・感染対策・医療倫理・情報保護、いずれの問題も、内部情報収集力の向上と権限の強化と機動性を高める権限の委譲が適正に行われる必要があります。

3、多様な病院機能強化

大学病院に求められる病院機能は急速に多様化しております。すでに実効的動き出している制度として

①医療法の改正に基づく臨床研究中核病院
②国際医療特区
③専門医制度に基づく基幹病院機能
④患者申し出医療の窓口機能
⑤地域医療構想ビジョンの中の大学病院

などが列挙されます。さらに、この速度感を考えると、次々と新しい機能が要求されることが容易に想定されます。

結びになりますが、本院の全ての職員が、職務に誇りと愛着を持ち、社会的使命を果たせる病院となることが最も重要なことと考えます。上記の全ての計画は、その基盤の上にあることを改めて強調させて戴きます。

平成27年度総会報告及び新入会員歓迎会報告

■平成27年度総会報告

平成27年度総会が、2月8日（月）午後6時より札幌パークホテル「高砂」で開催されました。

会議に先立ち、昨年の総会以降にご逝去された76名の会員のご冥福を祈り、黙とうが捧げられました。

総会は評議員会議長の南　勝先生（40期）と副議長の工藤俊彦先生（46期）の進行により行われ、最初に浅香正博同窓会長（48期）の挨拶があり、続いて議事録署名人として畠山鎮次先生（66期）及び新宮康栄先生（77期）が指名されました。

協議事項では、1. 平成26年度会計決算として吉岡充弘副会長（60期）から、決算状況について説明の後、審議了承されました。2. 平成26年度会計監査として工藤副議長から、会計処理は適切かつ正確に行われている旨説明の後、審議了承されました。

報告事項では、1. 庶務・事業報告として吉岡副会長から、会員数の推移、平成27年度諸会議開催状況、経費支援を行っている医学部学友会事業の実施状況について、2. 編集報告として田中伸哉編集担当理事（66期）から、平成27年度同窓会新聞及び同窓会誌の編集・発行状況について、3. 平成27年度フラテ研究奨励賞選考結果として畠山鎮次同賞選考委員（66期）から、選考経緯及び選考結果について、4. 平成27年度会計中間報告として吉岡副会長から、会計収支状況及び会費納入状況について、5. 医学部戦没同窓生追悼式の挙行について浅香会長から、本年7月2日に予定している追悼式の実施内容についてそれぞれ報告されました。

総会終了後に、平成27年度フラテ研究奨励賞授賞式が畠山同賞選考委員の司会により執り行われ、新宮康栄氏（77期）、加藤　将氏（79期）、川堀真人氏（79期）、真鍋　治氏（80期）及び渡部　昌氏（84期）の5氏に浅香会長から表彰楯及び研究奨励金が授与され、お祝いと激励の言葉が述べられました。

（事務局記）

■第92期新入会員歓迎会

総会に引き続き午後7時より同ホテル「ザ・テラスルーム」で第92期新入会員歓迎会が開催されました。

歓迎会は多くの卒業生が参加しやすい日ということで、医師国家試験の最終日の夜に開催することが恒例となっています。本年は2月6日（土）から8日（月）の3日間が国家試験であったためこの日の開催となり、92期卒業生のうち34名及び同窓会員39名が参加しました。

会は近　祐次郎先生（74期）の司会により進められ、最初に浅香会長から、国家試験の労いの言葉に続き「心強いことに、日本中・世界中で北大医学部の先輩が活躍しています。3年後には北大医学部創立100周年を迎えるので、皆さんもこれを機に大きな夢を持って世界に羽ばたいてください。」と新入会員を歓迎する挨拶がありました。

次いで医学部教職員を代表して大学院医学研究科長・医学部長の笠原正典先生（56期）から「同窓会は卒業生同士の親睦組織であると同時に、母校を支援する組織です。北大医学部という素晴らしい環境で学ばれたことを誇りにして、これからは皆さんが後輩をサポートして行ってください。」と歓迎の挨拶がありました。

続いて三浦　旭先生（28期）の「北大医学部を第二の故郷と思い、ここで過ごした青春時代をいつまでも忘れないでください。」という挨拶と乾杯のご発声により開宴となりました。

会が進む中、出席の新入会員を代表して吉田苑永さんの挨拶、ご来賓の先輩会員からも目黒順一先生（50期）、関　利盛先生（55期）、田村裕昭先生（57期）、阿部　弘先生（37期）から新入会員に励ましのスピーチがありました。会を通して各テーブルでは新入会員と先輩方が談笑したり、記念写真を撮ったりする光景が見られました。

会の後半の余興では阿部　弘先生が新入会員へのメッセージを込めて「Quizas, quizas, quizas」を、鈴木重統先生（39期）が「Ich habe mein Herz in Heidelberg verloren」を、三浦　旭先生が「白い花の咲く頃」を、高下泰三先生（32期）が「My way」を、深瀬理沙先生（91期）が「Hail Holy Queen」をそれぞれ熱唱されました。また、フラテ研究奨励賞受賞者の新宮康栄先生、加藤　将先生、川堀真人先生、真鍋　治先生、渡部　昌先生の5名が人気アイドルグループSMAPの映像を投影しながら一人ずつ受賞のコメントを述べた後に「世界に一つだけの花」を披露し、歓迎の宴が大いに盛り上がりました。

午後9時には名残惜しい雰囲気の中、高下泰三先生による閉会の乾杯の後、毎年恒例となっている「都ぞ弥生」を新入会員の鈴木瞭太君の前口上に続いて参加者全員が輪となって大合唱し、本年の歓迎会は盛大に終了しました。

（神島　保（70 期）記）

総会のもよう

目黒先生（50期）のスピーチ

関先生（55期）のスピーチ

田村先生（57期）のスピーチ

SMAPになりきるフラテ賞受賞者

「都ぞ弥生」を大合唱

平成27年度総会資料

平成26年度 北海道大学医学部同窓会 会計収支決算書(案)

収入の部　平成27年3月31日

項　目	予算額	収入済額	実行率(%)
会費収入	20,188,000	23,774,401	118
コンビニ収納		17,698,726	
郵便振替		4,079,000	
銀行振込		1,996,675	
口座引落		0	
事業関連収入	200,000	220,000	110
広告収入	200,000	220,000	110
販売収入	0	0	0
雑収入	601,000	664,456	111
利息収入	1,000	1,020	102
保険事務費	600,000	661,436	110
その他	0	2,000	—
当年度収入額	20,989,000	24,658,857	117
前年度繰越額	7,028,000	6,172,461	88
収入合計額	28,017,000	30,831,318	110

支出の部

項　目	予算額	支出済額	実行率(%)
事業費	11,910,000	11,681,498	98
総会・新入会員歓迎会費	800,000	873,072	109
新聞・会誌印刷費	5,570,000	5,430,089	97
刊行物送付費	2,100,000	2,036,225	97
記念品費	110,000	63,284	58
学友会助成費等	1,470,000	1,270,000	86
ホームページ更新費	60,000	84,240	140
会員登録システム改修費	700,000	831,600	119
研究助成費	1,100,000	1,092,988	99
総務費	8,890,000	8,899,401	100
職員給与費	4,900,000	4,898,802	100
諸保険事業主負担	950,000	949,852	100
諸謝金	30,000	30,000	100
会議費	150,000	138,106	92
渉外費	50,000	13,024	26
旅費交通費	150,000	102,120	68
印刷費・会費請求書作成費	2,100,000	2,084,264	99
通信費	220,000	395,932	180
消耗品費	220,000	183,079	83
振込手数料	20,000	17,064	85
備品費	100,000	87,158	87
予備費	100,000	108,432	108
当年度支出額	20,900,000	20,689,331	99
収支差額	7,117,000	10,141,987	(繰越高)

平成26年度 北海道大学医学部同窓会 特別会計報告書

平成27年3月31日

銀行名	預金の種類	平成25年度末 (26. 3. 31) 預金額	期間受入額	期間利息	平成26年度末 (27. 3. 31) 預金額	備　考
三菱UFJ信託銀行	定期預金	9, 532, 090	−	1, 900	9, 533, 990	
三井住友信託銀行	定期預金	10, 123, 572	−	2, 015	10, 125, 587	
北洋銀行	定期預金	3, 043, 497	−	946	3, 044, 443	
北洋銀行	普通預金	778, 079	1, 300, 000	210	2, 078, 289	※寄付金受入
合　計		23, 477, 238	1, 300, 000	5, 071	24, 782, 309	

※寄付金受入状況	平成26年4月10日	金500,000円	小林病院	小林　達男様
	平成26年7月11日	金100,000円	48期	浅香　正博様
	平成26年7月14日	金100,000円	会員2	長嶋　和郎様
	平成27年2月 6日	金200,000円	53期	鈴木　道子様
	平成27年2月24日	金300,000円	35期	齋藤　和雄様
	平成27年3月 2日	金100,000円	56期	笠原　正典様

平成26年度 会計監査報告書

北海道大学医学部同窓会
　会長　浅香　正博　殿

平成27年4月10日、平成26年度北海道大学医学部同窓会会計収支決算状況の監査を実施した。監査の結果、出納簿及び関係書類の整備、並びに特別会計の預金等の会計処理は、適正かつ正確に行われているものと認めた。

従って、平成26年度の北海道大学医学部同窓会の会計処理は、決算書のとおり正当であると認めるものである。

平成27年4月10日

監事　桜田教夫
監事　小山　司

新入会員ご挨拶

吉田　苑永(92期)

第92期生107名を代表してご挨拶申し上げます。先日はご多忙のところ、私たち92期生のために盛大な歓迎会を開催していただき、誠にありがとうございました。歓迎会では諸先輩方から多くのお話を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。長い歴史を持ち、伝統ある北大医学部同窓会の一員となれたことを心より嬉しく誇りに思っております。また、諸先輩方には、在学中に講義や実習、部活など様々な場面でお世話になり、ありがとうございました。

私たち第92期生は、北海道大学の受験制度が変わる前の最後の学年であり、1年生の教養の授業から6年間、皆で一緒に同じ授業を受けてまいりました。講義や実習ではお互いに協力し、様々なことを共に経験しながら学ぶことができ、とても充実した6年間を過ごすことができたと感じています。今後は臨床・研究と皆それぞれの道に進みますが、お互いに切磋琢磨し、医学の道を邁進したいと考えております。

私たちは6年間の集大成である医師国家試験を終え、4月より医師としての勤務が始まりました。これまでの学生実習とは違い、今後は人の健康や生命をも左右する立場となることに、皆それぞれ不安を抱えていると思います。実際の臨床の場においては、国家試験に合格しただけでは太刀打ちできないことが多いという現実を日々痛感しています。これからの医師人生は一生勉強であり、そのスタートラインに立ったことを忘れず、個々のレベルアップに励むことが必要であると感じています。今後とも医師としての自覚と責任を持ち、初心を忘れずに真摯に医学と向きあい、患者さんによりよい医療を提供できるよう、一層励みたいと思っております。

私たちは未熟であり、先輩である諸先生方には多大なるご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、諸先生方のご健康とますますのご活躍をお祈りし、挨拶とさせていただきます。

第92期生名簿(107名)

平成28年4月28日現在

会員氏名	出身校	勤務先	会員氏名	出身校	勤務先	会員氏名	出身校	勤務先	会員氏名	出身校	勤務先
相澤　翔吾	札幌南	苫小牧市立病院	小野寺慧洲	高校卒業程度認定試験	岩見沢市立総合病院	仙　万梨子	札幌北	岩見沢市立総合病院	松ヶ崎圭純	札幌南	天使病院
青山　慶哉			陰地　真晃	愛知県立旭丘	名古屋大学医学部附属病院	髙橋　悠希			松田　識郁	大阪教育大附属高天王寺校舎	市立函館病院
赤松　明樹			金谷　本真			髙橋友紀子			松永　章宏	札幌南	
浅川　朋廣		伊東市民病院	亀田健太郎	帯広緑陽	帯広厚生病院	髙畑明日香			松永　拓	静岡	伊東市民病院
東　紗希子			河合　迪彦			髙柳　瞬			松村　優	北嶺	市立函館病院
安達　祐馬			木津　佳彦			武田　賢大	札幌北	砂川市立病院	松本　嶺		
有里　仁希			金　相裕			竹中　駿	室蘭栄	滝川市立病院	三浦正一郎	都立西	小樽市立病院
石田　浩一	函館ラ・サール	札幌北楡病院	熊谷　輝			竹中　淳規			三崎　誠	海城	東京高輪病院
石橋　直樹	広島学院	帯広厚生病院	黒沢　暸			田中　幸介	名寄	湘南厚木病院	水井　大介		
一木　朝絵	四日市	名古屋第一赤十字病院	桑原　咲	札幌南	北見赤十字病院	田中　大貴			水島　慶一		
伊藤　智樹	東海	北海道医療センター	児島　裕一			佃　悠輔	札幌南		蓑島　考		
岩原　彰秀	筑波大附属駒場	慶應義塾大学病院	小西　康仁			土手　季			宮下　直樹	釧路湖陵	帯広厚生病院
魚住　健志	ラ・サール	斗南病院	小松　明子			友寄　高治			村上　瑛基	洛星	京都第一赤十字病院
宇都宮彩乃	愛光学園	北海道医療センター	紺野　幹郎	札幌南	帯広厚生病院	中野　陽介	札幌東	砂川市立病院	村上　雅一		
梅森　秀			坂﨑　太紀		帯広厚生病院	西田　紳悟			村中　祐介		
枝村　達磨	栄光学園	東京大学医学部附属病院	佐藤　恒明			西野広太郎			八木澤克弥	新潟	習志野病院
遠藤　愛	遺愛女子	市立函館病院	佐戸川弥紀	県立福島	天使病院	西村宗一郎	聖光学園	北大病院	安井悠太郎		
押領司親史	久留米大附設		佐野　弘幸			野原　拓馬			山口　瑞穂	昇華学園	北大病院
大浦　峻介	北嶺	医学研究科 神経生物学分野	三溝　啓		名古屋大学医学部附属病院	長谷河昌孝			山﨑　康之		
大嶌　祐貴	札幌北	帯広厚生病院	志藤　元泰			畑　昭宇	北嶺		吉田　苑永	旭川東	市立函館病院
太田　晶子	南山	武蔵野赤十字病院	柴田　美音	札幌聖心女子学院	江別市立病院	林　碧	札幌東	天使病院	吉野光一郎	明星	水戸協同病院
大塚　慎也	札幌北	市立旭川病院	島　秀起	奈良学園	河北総合病院	原嶋　十考			芳野　正修	茗渓学園	帯広厚生病院
大塚　拓也		帯広厚生病院	下地　章夫			半田　悠	北嶺	医学研究科 分子生物学分野	若園　順康	帯広柏葉	帯広厚生病院
尾関　勝宏	釧路湖陵		鈴木はる菜	須磨学園	聖隷三方原病院	平田　歩	愛光	帯広厚生病院	若林　健人	札幌東	北大病院
小田　義崇			鈴木　浩之			廣川果寿美	札幌南	藤沢市民病院	渡邉　茂也	仙台第一	佐久総合病院
越智　達哉			鈴木　悠介	北嶺	勤医協中央病院	深田翔太郎	札幌西	市立函館病院	渡邉　竜也	江戸川学園取手	KKR札幌医療センター
小野　鉄舟			鈴木　暸太	麻布	斗南病院	藤重　秀太		天使病院			

新入生ご挨拶

佐野　風輝人

この度第98期生として北海道大学医学部に入学させていただきました佐野風輝人と申します。今年度より、自身も強く憧れていた伝統ある北海道大学医学部および北海道大学医学部同窓会に入学・入会させていただくことになり、大変うれしく思っております。僭越ながら第98期生を代表いたしましてご挨拶申しあげます。

私は以前、自分の出身地である山梨県の山梨大学にて医師体験を受けさせていただきました。私はその際にお会いした北海道大学医学部ご出身の先生に強く憧れ、ここ北海道大学医学部に入学することを志すようになりました。今まではただその北海道大学医学部に入学する、という目標に向かってただひたすらに勉強をしていました。しかし、自分が憧れているその先生もかつて立たれた、同じスタートラインに自分が立った今、これから医師となるための道の上には様々な困難があるとは思いますが、この地で出会った素晴らしい友人たちや先生方のお力添えもいただいて、自分の初心を忘れず、憧れの先生に少しでも近づくということを目標として奮闘努力していきたいと思います。

また、北海道大学医学部は約100年という長い歴史をもっており、伝統ある旧帝国大学として日本における地位も確かなものとなっています。私たち第98期生はこの誉れ高い北海道大学医学部に入学させて頂いたのですから、その名に恥じぬよう努力していかねばなりません。「北海道大学医学部出身の医師」として恥ずかしいことのないよう、学習面だけではなく一人の人間としても素晴らしい人間となれるように人との出会いなどを大切にしながら人間力も高めていく所存です。これからお世話になるであろう諸先生方、大学関係者の方々、先輩方におかれましては何卒お力添えの程、よろしくお願いいたします。

最後に、これまで私を育ててくれた両親に感謝するとともに素晴らしい医師となれるよう努力してまいりますことを誓いまして、ご挨拶とさせていただきます。

平成28年4月　1年次入学者名簿（102名）

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
佐野風輝人	山梨県立甲府南	吉田　魁人	函館ラ・サール	谷口雄一朗	ラ・サール	久世　瑞穂	札幌南	鎌田健太郎	静岡県立韮山	平石　直幹	東海
棟方　裕貴	北嶺	髙木蒼太郎	札幌南	岩見謙太朗	桐朋	東海林　昴	札幌南	高山　初帆	東京都立西	小林　紘生	灘
家城　英佳	静岡県立掛川西	吉村　才気	京都府立嵯峨野	越智ますみ	札幌日本大学	岡村　峻	新潟県立新潟	野口　聡	武蔵	西谷　友希	愛知県立旭丘
澤田　大暉	北嶺	会津　峻	青森県立青森	谷口　陽	専修大学附属	佐藤　由佳	渋谷教育学園幕張	川村　拓斗	獨協	福岡　悠生	札幌開成
八尾　寅史	筑陽学園	高橋　克典	札幌光星	臼杵　海	香川県立丸亀	富樫　伶衣	北嶺	橘　沙弥音	札幌北	小又　大宜	札幌南
リュウ ミョウ	札幌南	渡辺　一希	高卒認定	小野　佳恋	札幌南	奥富　健人	芝	野口　輝	札幌南	登川　咲季	昭和薬科大学附属
篠原　翔平	大阪府立豊中	赤座　悠	滝	丹野　一誠	札幌北	鈴木　響子	宮城県仙台第二	菊地　孝史	早稲田	古谷　翔吾	ラ・サール
藥師寺　遼	帝塚山	髙橋　周平	筑波大学附属	大木　俊吾	愛知県立時習館	堂本　哲	東京都立日比谷	谷野　有香	札幌南	五味川　龍	札幌北
下村　浩基	札幌第一	渡辺　大祐	北嶺	小野田冴子	愛光	奥野　光貴	京都市立西京	橋本　玲雄	札幌南	長谷川彩菜	札幌日本大学
山口　翔	札幌南	明石峻太朗	北嶺	近澤　徹	札幌南	鈴木　萌里	札幌南	北村健太郎	札幌北	町　隆靖	小樽潮陵
実藤　智也	東大寺学園	髙橋　知一	札幌北	大久保快星	札幌南	中岡　佑太	札幌第一	富永　紗代	ノートルダム清心	齋藤　敦彦	札幌西
山﨑　清裕	岩手県立盛岡第一	朝倉　利晃	東京学芸大学附属	數井　真由	白百合学園	勝山　惠太	青山学院高等部	幡　直浩	北嶺	松下　京平	静岡県立磐田南
鈴木　壱星	札幌開成	竹内　空	北嶺	趙　淵石	札幌南	関根　智子	さいたま市立浦和	熊谷　和海	長野県長野	松本侑希保	長野県松本深志
山本　淳生	兵庫県立大学附属	五十嵐大河	北嶺	大甫　智之	和歌山県立田辺	中村　智大	聖光学院	鳥井　沙南	札幌南	佐久間智也	東海
瀬戸　敬太	札幌南	田中　開	開成	楠木　萌花	札幌西	金生　智洸	札幌北	濱中薫由樹	札幌西	三浦　匠	札幌北
山本　雄才	市川	石黒　夏海	南山	塚原　健太	愛知	髙津　三奈	札幌大谷	小西　俊輔	札幌北	森　陽菜	札幌南
田浦　拓弥	清風	伊勢谷直隆	北嶺	岡野宏玄デイビッド	芝	西村　直峻	甲南	仲谷　美憂	札幌南	松下　泰之	昭和学院秀英

平成28年4月　2年次進級者名簿（5名）　※総合教育部から移行

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
春日　優介	札幌東	松田　真奈	三重県立津	都　智愛	愛知県立一宮	山﨑　悠菜	札幌南	中島　理沙	愛知県立明和

平成28年4月　2年次学士編入学者名簿（5名）

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
飯田　圭祐	東京大学	長澤　孝充	北海道大学	岸岡　歩		白　洸寿	神戸大学	竹中　耕平	京都大学

教授退任ご挨拶

「昔日の陽炎 その2」
免疫学分野

瀬谷　司（せや　つかさ）
（52期）

医学研究科の皆様には一方ならずお世話になり、無事の退職を迎えることになりました。医学部広報で触れなかった国外留学生の問題を纏めます。2003年から新臨床研修制度が始まり、すぐに大学は独法化しました。新卒医師は任意の医療機関で研修し、北大医学部に残らなくなりました。大学の医局制度は崩壊し、並行して基礎の大学院に医学生は殆ど来なくなりました。基礎講座は定員を海外の留学生で補足すべく国際化が推奨されました。その国際化案はなかなか素晴らしく、トンでもない学生が溢れます。同じ人間だから、という広い心で後始末と尻拭いに忙殺されました。人獣センターでは炭疽で死んだカバを食って飢えを凌いでいる人たちが入学します。中国は日本の教育システム（即ち我々の研究室）に乗るべく国費で留学生を送り、北大は授業料を無料にして受け入れていますが、うちのデンさんは「日本は素晴らしい、食事してもお腹を壊さない」と喜んでいます。研究以前の社会マナーとかモラルが問題です。考えるのですが、医学研究とは「死んだカバや腐ったイヌを食べる」生存状況の風土で育つものでしょうか？水と食料の生活支援が先のはずです。ドイツもアラブ人受け入れを敢行してエラいですが、外国人受入れには何かの基準が要りそうです。

海外の問題を抱え込む前に日本は国内学生の教育制度を確立すべきでしょう。1.まず、優秀な人材の確保。2.医局制度を越えた研修医のバックアップ。3.地方の医療過疎の改善。4.学生に魅力的な臨床、基礎講座の大学院充実。それからの留学生問題です。先にフェアな人材の登用と医学部の研究レベルの向上が必須です。留学生も先進国から多く採るのがよく、それには国際的に魅力ある研究をアピールする努力が必要です。現在の基礎講座は深刻な人材難と研究力の低下で教授は小使いさんです。小使いさんは組織に従属すればよいですが、研究は媚を売ってる無駄な時間を真理の探究に向けて行うものです。一人になってもだらけない忍耐と克己心が要ります。20年後の基礎講座に医学部出身者が激減ししっぽの振り方だけを教えていては誰が医学生を教育し、責任体制を築くのでしょうか？日本は戦後復興を成遂げ、Made-in-Japanをブランドにまで押上げました。これは新興国並であった歪みを持ち越してのブランドです。官僚は机上で語るだけでなく率先して現場を理解し、それに耐えるプランを練るべきです。文部官僚に振り回されず、北大の発展をよろしくお願い致します。

※「昔日の陽炎」は、北大大学院医学研究科／医学部医学科広報(http://www.med.hokudai.ac.jp/ko-ho/)第67号でご覧いただくことができます。

スポーツ医学分野

安田　和則（やすだ　かずのり）
（52期）

この度、3月末をもって医学研究科を退任いたしました。私が主宰してきたスポーツ医学分野は、1996年に医学部生体医工学講座として設置されました。私は1997年に教授に就任し、教室の研究方針を、「生体医工学・生体材料科学領域における基礎研究成果をスポーツ治療医学・膝関節外科学に応用して革新的な治療を開発し、その成果を北大病院での治療を通して社会へ還元する」と定めました。その後、大講座内で分担する分野のミッションを、全国から集まる若い医師達にわかりやすく説明するという見地から、分野名は「スポーツ医学分野」としましたが、上記の研究方針は不変でした。

当時の新しい領域であった「生体医工学・生体材料学」という研究領域は、現在、文部科学省科学研究費の「総合系、複合領域分野、人間医工学分科」の一細目として、我が国が強みとする確立した領域になりました。北海道大学のこの5年間のこの細目における科学研究費採択件数は東大、阪大、東北大、京都大に次いで全国5位であり、当教室はそれに大きく貢献することができました。ゼロから出発して20年、我々の小教室は靭帯再建・再生に関する研究領域では総論文数および被引用数において世界のトップ5に入る研究グループに成長しました。また軟骨再建・再生領域においては、高機能ゲルの医用応用に関する医理連携研究が高い評価を受け、この4月から北大GI-CoREにおいて文科省の支援を受けて「国際ソフトマター研究教育拠点」の創設に参画することになりました。このような教室の発展はひとえに、多くの先輩のご指導、教室員および若い大学院生たちの努力、そして医学研究科のご支援の賜物であり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

教授を拝命して20年、最低限の責任は果たせたのではないかという安堵と共に、ここに北大医学研究科を卒業させていただきます。本邦の国立大学は今年から、過去に経験したことがないような激動の時代へと突入します。そうした中でも、北大医学研究科の全ての研究者がそれぞれの立場で活躍することによって、北大医学研究科が更に発展していくことを心から祈念いたしております。

Old soldiers never die; they just fade away.

お世話になりました。ありがとうございました。

教授就任ご挨拶

社会医学講座
衛生学・細胞予防
医学分野
西浦（にしうら）　博（ひろし）
（会員2）

平成28年4月1日付けで衛生学・細胞予防医学分野教授を拝命いたしました。開講以来約90年にわたる伝統と諸先輩方による数々の衛生学研究の業績を誇る教室の運営を任されましたことを大変光栄に思いますと同時に、その責任の重さに身の引き締まる思いです。

私は平成14年に宮崎医科大学を卒業後、東京都立荏原病院での初期研修を経て、研究修行と活動の場を主に海外研究機関で構えて参りました。タイのマヒドン大学で熱帯感染症の疫学を学んだ後、英国、ドイツ、オランダ、香港へ移り渡りつつトレーニングに励み、平成25年に帰国して以降は東京大学で過ごしました。その間、一貫して感染症疫学に取り組み、研究はもちろんのこと、海外でも教職員として学部・大学院の両方で社会医学の教育経験を積んで参りました。

このような私の経験を、これまで脈々と培われてきた北海道大学の衛生学教室の伝統と業績に融合することにより、衛生学を更に発展させつつ、新しい世代の優れた後進の輩出に努めることが私に与えられた使命であると肝に命じております。医学部教育では社会医学マインドを持って、個々の患者様に加えて集団の問題に目を向ける力を兼ね備えた医師の輩出に尽力いたします。大学院では、近い将来に社会医学系を含む大学院改組が予定されておりますが、これまでの自身の公衆衛生大学院等の教育経験を発揮して北大のオリジナリティに溢れた魅力ある大学院課程が提供できるよう努力し、また、これまでの国際共同研究を通じたネットワークを活かして教育研究での国際交流にも取り組む所存です。

研究活動においては、若者が主体の強い動機を持つ教室となるよう、明るく、開放的で、社会的使命感を感じつつ研究に取り組める環境を作り上げ、多くの若者にとっての登竜門となる教室の運営を目指します。国内でトップクラスであることはもちろんのこと、世界で個々の研究者名が認識されるような研究活動を展開し、その充実のために力を注いで参りたいと考えています。同窓会の諸先生方におかれましては、ご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

春の褒章、叙勲

瑞宝中綬章受章

北海道大学
名誉教授
児玉（こだま）　譲次（じょうじ）
（36期）

「叙勲にあたり」

この度の私の叙勲にあたりまして、私を支えてくださいました恩師、共同研究者、同僚、後輩、学生、事務官、技官などすべての方々に心より厚く御礼申し上げます。

私の専攻分野はヒトの頭蓋（トウガイ）の形態発生（肉眼発生）であります。

ヒトの頭蓋は15種23個の頭蓋骨によって形成され、これをさらに分類いたしますと5種7個の脳頭蓋と10種16個の顔面頭蓋に分類されます。脳頭蓋は後頭骨1個、蝶形骨1個、側頭骨1対2個、頭頂骨1対2個、前頭骨1個より成り、顔面頭蓋は篩骨1個、下鼻甲介1対2個、涙 骨1対2個、鼻 骨1対2個、鋤 骨1個、上顎骨1対2個、口蓋骨1対2個、頬骨1対2個、下顎骨1個、舌骨1個より成ります。

肉眼解剖学は研究しつくされてもう研究テーマが存在しないとさえ言われておりましたが、例えば頭蓋骨をとりましても未研究の骨があります。

私が調査致しました頭蓋骨は後頭骨、蝶形骨、頭頂骨の三骨の一部分にすぎず、他の頭蓋骨につきましては殆ど未研究のままであります。

私はヒト胎児頭蓋1100例を調査して下記の4件の新所見を得ました。

1. 後頭骨の上部の発育緩慢な一次の骨核と下部の発育急速な二次の骨核との融合不全の場合に限りインカ骨が発生することを証明致しました。
2. 蝶形骨体部の前半部は2対4個の骨核より発生すると記載されてありますが、私は5種9個の多発性の骨核より発生することを発見致しました。
3. 蝶形骨体部の前上部は従来の文献では体部により発生すると記載されてありますが、私は小翼の原基の中央線融合により生ずることを発見しました。
4. 頭蓋骨の異常で最も稀な異常と言われている二分頭頂骨は、上下二骨核の融合不全によるものと立証しました。

以上の私の研究調査は北海道医学雑誌に英文で発表され、これが縁で1975年（昭和50年）にNIH（アメリカ国立衛生研究所）で開催された、頭蓋底発生に関するシンポジウムに日本を代表して私が招待され、蝶形骨発生に関する発表を行いました。

このように私の行った頭蓋発生に関する調査は、15種の頭蓋骨のうち僅か3種にしか行われておらず、未調査の12種の頭蓋骨につきましては、研究調査が行われますことを祈って止みません。

瑞宝中綬章受章

北海道大学
名誉教授
大河原（おおかわら）　章（あきら）
（37期）

「瑞宝中綬章を受章して」

平成28年春の叙勲に際し、瑞宝中綬章拝受の栄に浴し、誠に光栄なことと身の引き締まる気持ちでおります。これも偏に、旭川医科大学並びに北大医学部時代を通して、ご指導、ご協力下さいました皆様の温かいご高配の賜物と深く感謝しております。

私は昭和36年に北大医学部を卒業後、神奈川県相模大野市の在日米国陸軍病院で一年間のインターンを終え、故三浦祐晶教授主宰の皮膚科学講座に大学院生として入局しました。大学院在籍中の昭和39年から42年までの3年間、米国オレゴン州ポートランド市のオレゴン大学皮膚科にresearch fellowとして留学し、一旦帰国して再び、昭和45年11月から47年7月まで、米国マイアミ大学皮膚科に留学し、visiting scientistとして研究に従事しました。この間一貫して難病の乾癬の病態・病因の解明と取り組みました。

昭和51年4月に新設の旭川医科大学皮膚科学講座初代教授として教室を主宰し、60年9月まで教室の土台作りに努力しました。昭和60年10月から約14年間は北大皮膚科学講座を主宰して平成11年3月に定年退官しました。

北大退官後は、5年間浅井学園大学（現北翔大学）で新設講座開設に参画し、また地方の医療機関では皮膚病の診療を通して第一線の医療の難しさを知りました。更に老人保健施設の理事長・施設長をも短期間経験しました。この間、社会福祉法人札幌緑花会に週1日出向いて重度心身障害児（者）の皮膚病ケアに携わり、現在も続けています。また退官後開設した医療法人廣仁会（浅沼廣幸先生(53期)、理事長）札幌皮膚科クリニック（院長　根本　治先生（53期））の治験審査委員会の委員長を務め、毎月一度委員会を開催して皮膚病、糖尿病、生物製剤、精神病薬等々多種の薬剤開発のお手伝いを現在も続けています。

これまで恩師　故三浦祐晶教授はじめ、非常に多くの方々の温かいご指導・ご鞭撻、ご協力により受章できましたことに、改めて深謝しております。また慣れない北海道で長い間共に歩んでくれた家内にも感謝します。

これからも微力ながら医療の本質を思索しながら一層の精進を重ねて社会に貢献する所存です。今後共宜しくお願い申し上げます。

瑞宝双光章受章

道警嘱託医
医療法人社団
清水内科医院 理事長　清水（しみず）　昇（のぼる）
（32期）

フラテ祭2016　9月開催

フラテ祭2016を、9月24日（土）に開催いたします。

フラテ祭は、平素からご支援をいただいております関係各位と医学部の親睦をさらに深め、医学部の現状を見ていただくことにより今後の抱負や課題を認識していただくための場として、2007年9月に第一回目を開催いたしました。

第十回目を迎える本年度も、北海道大学ホームカミングデーと同日開催いたします。北大医学部の変化・革新をお伝えしつつ、なごやかな催しとなるよう、準備を進めております。

詳細につきましては、同窓生の皆様方へは7月上旬頃改めてお送りするご招待状にて、お知らせいたします。ふるってのご参加をお待ち申し上げております。

フラテ祭実行委員会事務局
TEL：(011) 706－5012
FAX：(011) 706－7855

日　時：2016年9月24日(土)　午後～
場　所：北海道大学医学部／フラテ会館

平成27年度　医学研究科･医学部医学科各賞受賞者

特別賞を受賞して

札幌医大名誉教授、
北海道対がん協会
名誉会長
菊地　浩吉
（33期）

「人癌免疫治療の開発並びに癌検診の推進と癌予防への比類ない貢献」

私の愛するHeimatである北大医学部から、名誉ある特別賞を頂き誠に光栄であり、深く感謝申し上げます。

私達北大医学部33期生は、“散々な期”と自嘲していました。敗戦後、精神・物質共に世界一どん底の少年時代を過し、大学時代は欧米の医学に何とか追いつこうとあがき、どうにか世界に発言権を持つようになった世代であります。

今回の受賞の対象である「癌の免疫」は私の恩師の第一病理2代目教授の武田勝男先生以来、一貫して継続してきた研究であります。「癌細胞はnot selfで、免疫で殺すことが出来る」といくら叫んでも、自己の癌を自己の免疫で抑制すること、しかもヒトで証明しなければ信用されません。私達は早くから人癌の免疫治療の実現に努力して来ました。最近、半世紀もたって、従来は致死的であった癌が、免疫で治癒した例がいくつか確かめられました。癌の免疫治療薬が世界的に認可される例が出て、ようやく人癌の免疫治療が医療として実現しました。私の後継者たちは、その有力な一翼を担っております。

もう一つの「癌の検診・予防」ですが、実は日本で最初の対がん協会は、北海道で設立されたのです。北大医学部2期生の山口寿一先生、当時北大一病の今裕教授の助手が、噴門部胃癌で25才の若さで亡くなられました。父君の北海タイムス取締役だった山口喜一氏は、深く悲しまれ、当時のお金で1,000円を癌の予防推進のために寄付されました。これをもとに、今裕先生が会長、‘タール癌の山極・市川’の市川厚一先生が理事長、北大医学部の臨床各科の教授が理事となって、1929年に北海道対がん協会が作られたのです。

はるか後年、私は北大癌免疫研究施設助手の頃に武田先生に「お前明日から対がん協会の病理組織を診断しろ」と命令されました。「北海道でがん検診を始める」というのです。それ以来約半世紀、検診材料の診断に与り、評議員、理事、会長を歴任しました。

このように、私の今回の受賞対象は何れも北大医学部に源を発するもので、その北大医学部からこのように立派な賞を、しかも北大一病の後輩の笠原正典医学部長からお渡しいただいたのは感激でした。

北大医学部同窓生の皆様のこれまでのご後援に厚く御礼申し上げます。

優秀研究賞を受賞して

血液内科学分野
教授
豊嶋　崇徳
（会員2）

「造血幹細胞移植における移植片対宿主病の機序の解明」

この度、私が長年にわたって取り組んでまいりました「造血幹細胞移植における移植片対宿主病の機序の解明」に対し、平成28年度医学研究科「優秀研究賞」を賜り、大変光栄に存じます。笠原正典医学研究科長はじめ、選考委員の先生方、並びにこれまで私の研究を支えてきていただきました多くの方々に深謝いたします。私は、臨床医として、白血病などの血液がん治療に携わる中で、治療成績の向上のためには、最強の治療法である造血幹細胞移植の改良が必要であると考えるようになりました。造血幹細胞移植による抗白血病効果は、ドナーの免疫細胞が、患者の細胞を異物として認識する同種免疫反応によってもたらされる一方、生体組織を攻撃する移植片対宿主病GVHDが必発であり、いわば諸刃の剣の治療法であります。そこで、移植免疫を学ぶため米国に留学いたしました。当時この分野で世界のトップクラスであったFerrara教授のもとで、日本とはまったく違う、研究に対する自由で奥が深い考え方と最先端の研究手法を学べたことが今の自分の基盤となりました。

私たちは、GVHDの発症に関わる従来の概念を覆す発見や、さまざまな細胞群、分子機構を次々に明らかにし、多くの新たな臨床応用の基となりました。留学から帰国後も岡山大学、九州大学、そして現在の北海道大学と場所を変えながらも一貫して研究を帰属し、最近ではGVHDによる組織障害の本質は組織幹細胞・ニッチシステムダメージであり、これによる生体のホメオスタシスや腸内エコロジーの破綻による病態であることを世界に先駆けて明らかにし、国際的な新たな研究の潮流をつくることができました。このような新規知見をもとに新たな治療法が可能となり、現在、さまざまな官民の研究者との共同研究を進めているところです。

話は変わりますが、わが国では少子高齢化が着々と進行しており、HLA適合ドナーに頼る移植医療の将来が危惧されるところです。HLA2本のうち1本のみの合致したドナーでよければ、親子、親戚など、ほぼすべての患者がドナーをえることができます。そこで、このようなHLA半合致移植を実用化するための臨床研究をオールジャパン体制で開始しました。これを可能としたのは移植免疫、GVHDの研究から得られた知識、洞察力、経験の賜物だと思います。自分がこのような貴重な経験をしたからこそが、臨床医を目指す若者に一度は基礎研究を経験すること、また世界をみることを勧める理由です。今回のこのような栄誉ある賞を頂けたことは、さらに研究を進める大きなモチベーションとなりました。白血病などの血液がん患者の治療成績向上のためにますます尽力していくつもりです。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成27年度フラテ研究奨励賞報告

選考委員会委員長
秋田　弘俊（57期）

北海道大学医学部同窓会フラテ研究奨励賞は毎年12月に公募しており、平成27年度は10件の応募がありました。

選考は、各委員が事前に応募者全員の研究業績を審査し、本年1月15日（金）に開催した選考委員会で、研究業績、研究計画の発展性等について多様な観点から審査を行った結果、次の5名を受賞者として決定しました。

授賞式は本年2月8日（月）に札幌パークホテルで行い、浅香正博同窓会長（48期）から表彰楯及び研究奨励金が贈呈されました。

本賞は、医学部同窓会の若手会員（応募の年度末で40歳未満）に対し、創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて第13回となる今回の受賞者を含めてこれまでに53名の方々を顕彰し、その多くが受賞後も期待どおりの研究業績を挙げています。

今後も、医学研究の発展に大きな可能性を秘めた若手会員が、奮って応募されることを期待します。

「受賞の喜び」

（順不同）

研究課題：左室形成術における左室 wall stress と心筋リモデリング効果の検討

北大病院
循環器・呼吸器外科
新宮　康栄
（77期）

「フラテ研究奨励賞受賞にあたって
ー左室形成術のメカニズム解明に挑む」

このたびは大変歴史のあるフラテ研究奨励賞をいただき、心から関係者の皆様に感謝申し上げます。10年来当科の臨床的テーマの一つであります「左室形成術」は心筋梗塞で線維化した部分を形成し心機能を改善する目的で30年以上前から世界的に施行されてきました。著名な効果がある症例が存在するものの最近の大規模臨床研究では否定的な意見も出てきており、依然適応や意義に関しては議論のあるところです。

小生はラットのモデルを用いて左室形成術のメカニズム解明に挑んできました。左室形成術の効果メカニズムには左室容量減少による壁応力の低下（ラプラスの法則）、球形の左室をより楕円形にすることによる収縮効率の改善、左室非同期運動の改善、僧帽弁逆流の改善などが想定されています。本受賞研究では、左室形成術は左室壁応力を低下させることで心筋リモデリングを抑制することがわかりました。また、左室形成術は病的心筋肥大で再発現するする胎児性遺伝子も部分的に抑制することがわかり、効果発現メカニズムの一部を証明することができました。

厳しい研究費獲得競争のなかフラテ研究奨励賞受賞は大変励みになり、今後さらに研究を発展させることができると確信しております。このたびは誠にありがとうございました。

研究課題：オートファジーを標的とした関節リウマチ滑膜線維芽細胞過増殖の制御

北大病院
内科Ⅱ
加藤　将
（79期）

To make Benkei cry

この度は名誉あるフラテ研究奨励賞を拝受し、北海道大学医学部同窓会の諸先生方、これまでご指導くださった渥美達也教授、小池隆夫名誉教授をはじめ北海道大学医学部第二内科の先生方、留学先でご指導くださったSteffen Gay教授をはじめスイスチューリッヒ大学病院Experimental Rheumatology教室のメンバーに心より感謝申し上げます。また同期の川堀真人君と一緒に受賞できたことは本当に嬉しい限りです。私は近年関心が高まっているオートファジーに着目し、関節リウマチの病態の中心的役割を担っている滑膜線維芽細胞において、オートファジーが細胞死に対して抑制、促進、両面の作用を持つこと、オートファジーが細胞死を促進する際にはautophagy-linked FYVE proteinの低発現が関与していることを示しました。これまでアポトーシス抵抗性と考えられてきた関節リウマチ滑膜線維芽細胞において、この非アポトーシス性のオートファジー性細胞死が"アキレス腱"である可能性が示唆されました。滑膜線維芽細胞に感受性の高い細胞死の経路を調整することにより、関節リウマチの病態の本体である増殖性滑膜炎、パンヌス形成を制御できるのではないかと考え、今後も臨床、研究に精進していく所存です。この度は誠にありがとうございました。

研究課題：脳虚血における内因性制御因子（マイクログリアＴＲＥＭ２蛋白）の検討

小樽市立病院
脳神経外科
（北大医学研究科：脳神経外科学分野）
川堀　真人
（79期）

このたびは大変栄誉ある平成27年度フラテ研究奨励賞を頂き、大変光栄に存じます。受賞に際しまして選考委員および同窓会の諸先輩方、佐竹様をはじめとする事務局の方々、脳神経外科学分野の寳金清博教授に心よりお礼申し上げます。私は2003年に北大を卒業し、2008年より大学院医学研究科脳神経外科にて脳虚血と幹細胞治療について研究をさせていただきました。その後2011年より寳金教授の推挙を頂きましてカリフォルニア大学サンフランシスコ校のYenari教授が主宰する神経内科学研究室で3年間の研究留学をさせていただきました。Yenari教授は脳卒中研究領域の世界の第一人者であり、最近は特に脳虚血と炎症に着目して精力的に研究をされております。このラボにてノンビリとしつつも集中して、脳内の貪食細胞であるマイクログリアが脳梗塞の際に障害を受けた細胞に対してどのような挙動を示し、その意義についての研究を行うことが出来ました。その結果今まで明らかにされてこなかった貪食細胞の活性化物質の同定と貪食による神経細胞の保護を明らかにし、脳梗塞における新たな治療戦略を提示することが出来ました。今回の受賞で一番うれしかったことは、同世代の優秀な受賞同窓生と交流を持つことができたことで、このネットワークを大切にし、かつ刺激を受けながらより良い研究を行っていきたいと考えています。

研究課題：機能画像情報と形態画像との融合を行うことで、多面的に心臓病変の評価を行う

北大医学研究科
核医学分野
真鍋　治
（80期）

この度は平成27年度フラテ研究奨励賞を受賞させていただき、大変光栄に思っています。

現在、私は機能画像であるPETの情報と、形態画像であるMRIの融合により、より多面的に心臓病変の評価を行うことを目指し、研究を行っています。北海道大学では腫瘍性病変に広く使われている^{18}F-fluorodeoxyglucose (^{18}F-FDG)の他にも、沢山のPETトレーサーを用いて臨床・研究が行われています。心臓領域では^{18}F-FDGを用いた心筋生存能や炎症性病変の評価が行われている他、^{15}O-標識水を用いた心筋血流の定量や、^{11}C-hydroxyephedrineを用いた心臓交感神経分布を画像化・定量する試みも行われています。一方、MRIを用いた心臓検査は機器の改良や撮像方法の確立に伴い、広く臨床応用されてきており、特に高磁場3T MRIでは、高空間分解能を活かして、心内膜下虚血や遅延造影像で得られる障害心筋の評価といった、PETとは異なった情報を得ることができます。当科の医局員だけではなく、循環器内科、第1内科、放射線診断科の先生方、薬剤グループの方々、技師さんや修士の学生達と一緒に研究を行っています。今回の受賞を励みに、これからも、複数のトレーサーを用いたPETによる機能情報とMRIを主体とした形態画像とを合わせて、詳細な心病変の性状を評価するのと同時に、より簡便で病態に合う定量指標の確立を行っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

研究課題：E３ユビキチンリガーゼによる細胞機能制御機構の解明

北大医学研究科
医化学分野
渡部　昌
（84期）

この度は栄誉あるフラテ研究奨励賞に選出していただき誠にありがとうございました。また授賞式で諸先輩の先生方と一緒に一芸と一曲を披露させていただいたことは、とても楽しく忘れられない一生の思い出となりました。同窓会という存在の暖かさを感じた瞬間でもありました。重ねて御礼を申し上げます。

私は医学部学生時代より畠山鎮次先生ご指導の下、ユビキチンリガーゼ(E3)という酵素の基質同定とその機能の解析というテーマで研究に従事しております。ユビキチンによるタンパク質の可逆的修飾は様々な細胞機能を支える重要な翻訳後修飾の一つです。この修飾反応はE3が選択的に基質を認識することで起こる反応であり、個々のE3に特異的な基質を同定しそのユビキチン化部位を決定することは様々な細胞機能を理解する上で大切です。私はこの中で、近年進展した手法を効果的に組み合わせた新しい基質同定法の開発を軸に、研究を進めております。

選考委員の諸先生方、学生時代から本学でお世話になったたくさんの先生方、同門会および同窓会の諸先輩方、そして辛抱強く陰になり日向になりながら導いてくださった畠山鎮次先生に、この場をお借りしあらためて心より御礼を申し上げます。このたび頂いた奨励賞を励みに、微力ながら北海道大学医学部、そして医学の発展に貢献していきたいと考えております。

平成28年度　フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集!!

《フラテ賞》

- 平成28年度北海道大学医学部同窓会フラテ研究奨励賞受賞候補者を次のとおり募集します。
- 本賞は、医学部同窓会若手会員の創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて昨年度までに53名の方々が受賞しています。
- 第14回目の募集となる今年度も、多くの若手会員が奮って応募されることを願っております。

《授賞件数等》

- 授賞件数は5名以内、受賞者には表彰楯及び研究奨励金20万円を贈呈します。

《応募資格、募集期間等》

- 応募資格　平成28年度末（平成29年3月31日）現在、40歳未満である本会会員で、年会費を完納していること。
- 募集期間　平成28年11月1日から11月30日までの1ヵ月間です。

※募集期間は、今年度から1ヶ月早まっていますので、ご注意ください。

《応募書類等》

- 応募書類（申請書、推薦書、業績別刷）の提出部数は6部（コピー可）とします。応募書類は一切返却しません。
- 応募書類を封筒に入れて、「フラテ研究奨励賞応募書類在中」と朱書し、郵送または持参すること。

①郵送は必ず「簡易書留」としてください。11月30日までの消印のあるものは有効とします。
②郵送した場合は直ちに、応募者氏名、郵送日を電子メールにより同窓会事務局へ連絡してください。
③郵送（持参）先
〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部内
北海道大学医学部同窓会事務局

- 申請書は同窓会ホームページからダウンロードしてご使用ください。北大医学部同窓会で検索して、左上部のContents「フラテ研究奨励賞」から入ってください。

北大医学部同窓会　検索

《選考結果の発表、授賞式等》

- 受賞者が決定次第、北大医学部掲示板及び同窓会ホームページで発表するとともに、応募者全員に選考結果をお知らせします。
- 授賞式は、平成29年2月に開催する同窓会総会で行う予定です。
- 受賞者には、授賞式への出席及び同窓会新聞への寄稿をお願いしています。
- ご不明の点は、同窓会事務局にお問い合せください。

電話　：011-706-5007
E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

平成27年度同窓会会長賞報告

本賞は、次の一に該当する医学部医学科を卒業する学生を顕彰することを目的に、平成27年度に創設されました。

⑴学業成績に対する表彰
学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れた者　3名以内

⑵研究活動に対する表彰
学会、学会誌等で優れた評価を受けた者

⑶課外活動に対する表彰
全国規模の競技会、コンクール等で優勝した団体の主将、または個人

⑷社会貢献に対する表彰
ボランティア活動、人命救助、災害救援等の社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の模範となった者

⑸その他の活動等に対する表彰
その他前4号に準ずるもので、同窓会会長賞にふさわしいと認められる者

受賞者は、毎年2月に医学部長から推薦された候補者について選考し、第1回目となる平成27年度は次の5名を受賞者として決定しました。

授賞式は3月24日（木）に挙行された医学部医学科学位記伝達式で、浅香正博同窓会長（48期）から表彰楯が贈呈されました。

⑴学業成績に対する表彰
安達　祐馬、吉田　苑永、水井　大介
【授賞理由】在学中6年間の学業成績が最優秀である。

⑵研究活動に対する表彰
伊藤　智樹
【授賞理由】在学中に分子病理学分野において熱心に研究に取り組み、その成果を筆頭演者として、平成26、27年に日本病理学会総会で発表し高い評価を得た。
柴田　美音
【授賞理由】在学中に医化学分野において熱心に研究に取り組み、その成果を筆頭著者として英文学術誌（BBRC）に発表し高い評価を得た。

（敬称略）

「ノーベル賞授賞式に出席」

笹森　瞳（医学科4年）

12月10日（日本時間11日未明）、スウェーデンのストックホルムで行われたノーベル賞授賞式に、医学部医学科4年の笹森瞳さんが出席しました。

笹森さんは、スウェーデン青年科学者連盟が毎年ノーベル賞週間に合わせてストックホルムで開催する「ストックホルム国際青年科学セミナー（SIYSS；Stockholm International Youth Science Seminar」に参加しておりました。これは、公益財団法人国際科学技術財団が毎年2名の日本人学生を派遣しているもので、笹森さんは「世界トップレベルの研究に触れて視野を広げたい」との思いから今回応募し、選ばれたものです。

笹森さんは、授賞式のほか、記念講演、記者会見、レセプション、晩餐会ならびに日本大使館主催のパーティなどに出席しました。そして，医学生理学賞の受賞者が記念講演を行った会場で、地元の高校生に向けて自身の研究内容の発表を行いました。

【感想】

ノーベル賞関連行事への参加を通して特に印象に残ったことを紹介します。2015年の文学賞を受賞されたSvetlana Alexievich氏の記念講演から学んだことは、「途方もない小さなステップを重ねた先に価値を見出せる」ということです。自分の医学部での勉強、研究、キャリアを考えるときに、目標を達成するのに必要不可欠な要素とは何かを考え、今できること・やるべきことを積み上げたいと思います。また、今回医学生理学賞を受賞された大村先生とお話しして、人との縁やつながりが大事、と聞きました。こちらも今後の人生に生かしていきたいと思います。

ストックホルム国際青年科学セミナーでは、世界中から25人の若手研究者が集まりました。世界の天才・秀才との出会い、異なる領域の若手研究者との交流、各地の医学生とのキャリアをめぐる議論をしました。研究に携わる者としての自覚、多様性を尊重するということ、研究の独自性と社会貢献を意識することを学びました。1500人のスウェーデンの高校生が集まるセミナーという大舞台で自分の研究を発表できたことも、とても光栄で楽しかったです。これまで勉強や研究についてご指導いただき、このような機会につなげてくださった神経薬理学分野 吉岡充弘教授をはじめ、泉　剛先生、吉田隆行先生、大村　優先生には感謝申し上げます。

また、渡航にあたり、ご配慮くださいました皮膚科、眼科、脳神経外科、形成外科の先生方に感謝します。

日本大使館主催のパーティにて
（中央:大村智先生、右:笹森さん）
写真提供:国際科学技術財団

医学部戦没同窓生追悼式のご案内

同窓会会長　浅香　正博

先の大戦で亡くなられた医学部医学科及び医学専門部ご卒業の方々を追悼し、平和を祈念して「北海道大学医学部戦没同窓生追悼式」を挙行いたします。

多くの皆様のご参列をお願い申し上げます。

日　時：平成28年7月2日（土）
　　　　午後1時より
会　場：医学部学友会館「フラテ」
所在地：北大医学部内
　　　　（札幌市北区北15条西7丁目）

事前申し込みは不要です。

特別寄稿

今村　昌耕（19期、98歳）

謹んで一文を啓上し、尊い霊の世界の方々にお知らせする光栄ある役を果たします。北大医学部1期生（大正15年卒）より20期生までと、医学専門部1期生より3期生までの卒業生中、過去の満州事変、日中戦争、そして何といっても負け戦さとなった太平洋戦争に、陸海軍軍医として国難に殉じ参戦し、不運にも名誉の戦死をされました方々に対し申し上げます。

各卒業期のクラス会で、追悼・慰霊の礼をしてこられましたが、組織的な会は大分前に終わっています。今回、元同窓会長・齋藤和雄先生、現会長・浅香正博先生、医学部長・笠原正典先生の御三方の御発意により、同窓会と母校とが一体となって戦没者の追悼慰霊の式典を実施して下さる事は、昨年の終戦70年に鑑み大変意義の大きい行事と思います。在学中に戻って、寮歌「都ぞ弥生」の斉唱も聞けるとは何と嬉しいことでしょう。参戦し今日まで生き残れたごく少数の超高齢者に取ってもありがたい式典であります。

この大戦で大正時代に生まれた男子1340万人のうち200万人が戦死し、軍人戦死者240万人の83.3％を占めるという分析があります。17期生は3ヶ月、18・19・20期生が半年繰り上げ卒業で、12期生から16期生も合わせ、陸海軍軍医になった全員が前記大正生まれに該当します。この事実は大正生まれの人はみじめな時代の人と嘆く反面、21期生から92期生までの人達の誰かが引き受けるかもしれぬ身代わりを務めたという誇らしい考えもあり、後者の考え方が私の人生の中で名誉ある「aufheben」した考えであろうと思います。

卒業名簿上の戦死者は1期生から10期生までは2〜4名ですが、12期生9名、13期生15名、14期生3名、15期生9名、16期生7名、17期生12名、18期生18名[注1]、19期生22名[注2]、20期生5名[注3]で、1期生からの合計は私の計算では122名になります。

私は海軍でしたが日本中の海軍軍医の数は、17期生相当は475名中戦死108人（22.7％）、18期生相当は578名中戦死164名（28.4％）、私達の19期生相当は675名中戦死106名（15.7％）で、軍医の任官期間によって異なるのと戦況不利の終戦時にも戦死者が多くなったと思われます。

陸軍は全国の志願者を各部隊に配属教育し、海軍は集団で教育しました。17期生・20期生は本土で、18期生は北鮮（現・北朝鮮）の元山、19期生は中国の青島でそれぞれ3ヶ月、後は築地の軍医学校で4ヶ月、各年の4月1日に人事部の辞令を受け取り、学部出は中尉、専門部出は少尉に任官しそれぞれ任地に赴任していきました。私は横須賀海軍病院で交代・補充の待機要員でした。比較的長く留め置かれ7ヶ月後、横須賀工廠で竣工した駆逐艦に乗り込み、終戦まで約10ヶ月、昭和20年1月にバシー海峡での空襲に遭いながらも（中破、火災発生も消火）高雄に帰ることができました。

敗戦時に戦死者に誓ったことは祖国の復興で、有言、無言の誓いでした。今や当時の敗戦国が危機を脱し復興し、国際社会でかつての勝者の仲間入りを果たしています。全国の戦没者の皆様に報いる証です。戦没者の皆様、どうぞ安堵してください。そして、今後の日本の護持をお願いいたします。

（平成28年4月18日）

注1　18名には同時繰り上げ卒業の医学専門部1期生6名を含む。
注2　22名には同時繰り上げ卒業の医学専門部2期生11名を含む。
注3　5名には同時繰り上げ卒業の医学専門部3期生2名を含む。

理事会・評議員会報告

理事会
日　時：平成28年3月28日（月）
午後6時から午後6時40分
場　所：医学研究科　中会議室
出席者：理事7名、監事、評議員会議長、副議長

評議員会
日　時：平成28年3月28日（月）
午後7時から午後7時50分
場　所：医学研究科
学友会館「フラテ」大研修室
出席者：評議員、予備評議員59名
（出席19名、委任状提出40名）、
理事6名

【協議事項】

1. 次期評議員会議長、副議長の選出について
現議長及び副議長の任期満了に伴い、次期議長に福田　諭評議員（52期）、副議長に小谷晃司評議員（65期）が選出されました。なお、任期は平成28、29年度の2年間です。
2. 次期役員（理事、監事）の選出について
現役員の任期満了に伴い、武藏学役員候補者選考委員会委員長（51期）から、同委員会が選考した役員候補者（理事13名、監事2名）の選考経緯及び選考結果について報告の後、審議了承されました。
3. フラテ研究奨励賞要項の一部改正について
現在の公募時期12月を、十分な審査日程を確保するため1ヶ月早めて11月に変更することが、審議了承されました（平成28年4月1日から実施）。
4. 平成28年度会計収支予算（案）について
会計収支予算案について説明の後、審議了承されました。
5. 医学部戦没同窓生追悼式の挙行について
追悼式実施要項案について説明の後、審議了承されました。

【報告事項】

1. 次期評議員、予備評議員について
平成28、29年度の各期ごとの評議員及び予備評議員について報告されました。
2. 平成27年度会計収支中間報告について
本年2月末日現在の会計収支状況及び特別会計預金状況について報告されました。
3. 平成27年度庶務、事業報告について
総会及び新入会員歓迎会の開催状況等について報告されました。
4. 平成27年度編集報告について
同窓会新聞及び同窓会誌の発行状況等について報告されました。
5. 医学部創立100周年記念事業について
100周年記念事業の進捗状況等について報告されました。

評議員会議事終了後、南　勝議長（40期）及び工藤俊彦副議長（46期）から、退任の挨拶並びに評議員に対し謝辞が述べられました。

新役員、評議員・予備評議員名簿

任期：平成28年4月1日～平成30年3月31日

〈理事・監事〉

役職	氏名	期	勤務先
会　長	浅香　正博	48	北海道医療大学 学長
副会長	佐久間一郎	55	社会医療法人社団 カレスサッポロ 北光記念クリニック 所長
	吉岡　充弘	60	北海道大学大学院医学研究科 神経薬理学分野 教授
会計理事	武田　宏司	56	北海道大学大学院薬学研究院 臨床病態解析学研究室 教授
編集理事	田中　伸哉	66	北海道大学大学院医学研究科 腫瘍病理学分野 教授
理　事	長瀬　　清	40	北海道医師会 会長
	松谷有希雄	51	国際医療福祉大学 副学長
	笠原　正典	56	北海道大学大学院医学研究科長・医学部長　分子病理学分野 教授
	大場　淳一	58	市立旭川病院 副院長 胸部外科
	小笠原和宏	59	釧路労災病院 副院長 外科部長
	畠山　鎮次	66	北海道大学大学院医学研究科 医化学分野 教授
	田中　真樹	70	北海道大学大学院医学研究科 神経生理学分野 教授
	近　祐次郎	74	近内科クリニック
監　事	藤井ひとみ	57	社会医療法人 母恋 天使病院 病院長
	橋野　　聡	58	北海道大学保健センター センター長

〈編集委員〉

役職	氏名	期	勤務先
委員長	田中　伸哉	66	北海道大学大学院医学研究科 腫瘍病理学分野
委　員	山科　賢児	55	やましな内科クリニック
	南須原康行	64	北海道大学病院 医療安全管理部
	長　　裕子	66	北海道大学病院 小児科
	樋田　泰浩	67	北海道大学病院 循環器・呼吸器外科
	矢部　一郎	67	北海道大学大学院医学研究科 神経内科学分野
	神島　　保	70	北海道大学大学院保健科学研究院 医用生体理工学分野
	石田　雄介	75	釧路労災病院 病理診断科
	木佐　健悟	80	倶知安厚生病院 総合診療科
（札医連絡員）	田中　　敏	71	札幌医科大学医学部 病理学第二講座
（旭医連絡員）	棚橋　祐典	66	旭川医科大学医学部 小児科学講座
顧　問	長瀬　　清	40	北海道医師会
	佐久間一郎	55	社会医療法人社団 カレスサッポロ 北光記念クリニック
	當瀬　規嗣	60	札幌医科大学医学部 細胞生理学講座
	柿崎　秀宏	59	旭川医科大学医学部 腎泌尿器外科学講座

〈評議員・予備評議員〉

期	評議員	予備評議員	期	評議員	予備評議員	期	評議員	予備評議員
15	小野　淳信		50	小林　清一	福田　公孝	79	庄野　雄介	齋藤　晶理
18	大村　茂夫		51	永島　哲郎	武藏　　学	80	木佐　健悟	松島　理明
19	小野　　基		52	福田　　諭	菊田　英明	81	那須　裕也	久保田玲子
23	佐々木裕雄		53	渡邉　正夫	松下　卓郎	82	伊東　慎市	
24	竹村　敏雄	飯田　正一	54	吉田　純一	竹林　武宏	83	清水　智弘	井平　　圭
25	小菅　高之	吉田　長平	55	田代　典夫	山科　賢児	84	庄司　哲明	横畠　絵美
26	竹内　　隆	七戸　幸夫	56	西澤　典子	柴田　睦郎	85	河野　　修	藤本　隆憲
27	池端　　隆	井門　英明	57	白土　博樹	秋田　弘俊	86	西本あか奈	
28	三浦　　旭	柳澤　　守	58	牧瀬　則子	古御堂　均	87	荒木　　大	川島　圭介
30	岸本總一郎	平山　亮夫	59	松野　吉宏	鈴木　康夫	88	福田　直樹	大場　彩音
31	水戸　迪郎	大野　義雄	60	久住　一郎	篠原　信雄	89	脇田　雅大	水門　由佳
32	高下　泰三	景山　正晴	61	佐藤　典宏	後藤田裕子	90	押野　智博	今本　鉄平
33	能中　陽一		62	川浪　　貢		91	（未定）	（未定）
34	多米　　豊	坂岡　　博	63	加藤千恵次	石川　岳彦	92	半田　　悠	大浦　峻介
35	田島　邦好	小池　章之	64	加藤　正仁	小川　秀彰	96	伊林　　諒	
36	近藤　　浩	高杉　佑一	65	小谷　晃司	森田　　研	97	木村　知希	
37	後藤　康之	浅野讃一郎	66	尾島　裕和	鈴木　清護	98	（未定）	（未定）
38	大平　整爾	荒川　　浩	67	矢部　一郎	増谷　　学	専1	河村　弘司	
39	鈴木　重統	鎌田　　覚	68	南場　研一	古本　智夫	専2	三部　重喜	山田　　功
40	南　　　勝	阿部　和厚	69	外丸　詩野	中島　泰志	専3	金川　宗一	橋本　行夫
41	富樫　武弘	江端　英隆	70	相澤　寛志	三浦　　淳	専4	吉尾　　弘	伊藤　　敦
42	小林　邦彦	山下　幸紀	71	西原　広史	山田　崇弘	専5	佐藤　雅夫	高橋　尚克
43	三上　一成	関谷　千尋	72	小林　　徹	泉山　　康	専6旧	山岸　　薫	
44	中村仁志夫	石橋　輝雄	73	西田竜太郎	野呂　紀子	専6新	西　　　博	
45	宮坂　和男	蕨　　建夫	74	田代　　淳	江川　　潔	専7旧	斎藤　秀夫	
46	工藤　俊彦	大宮司　信	75	三山　博史	夏井坂光輝	専7新	榊原　　勉	
47	田川　義継	本間　研一	76	柳生　一自	加納　崇裕	会員2	渡邉　雅彦	大滝　純司
48	松野　一彦	小笹　　茂	77	三田村　卓	武重宏呂修			
49	川口　秀明	安達　一幸	78	梅田　弘胤	深谷　進司			

議　長　福田　　諭（52期）
副議長　小谷　晃司（65期）

告 知 板

＜教授就任ご挨拶＞

新潟大学大学院医歯学総合研究科
呼吸器・感染症内科学分野 教授
菊地　利明（66期）

平成27年2月に、前任地の東北大学呼吸器内科から新潟大学へ異動いたしました。平成2年に北大医学部を卒業してからは、出身の仙台に戻り、主に東北大学で研鑽を積ませて頂いておりました。思い起こすと北大を離れて早四半世紀となります。これまでの折々、北大医学部同窓の先生方からは多くのご支援を頂いて参りました。この場を借りて御礼申し上げたいと思います。これからも北大医学部同窓の先生方からお力をお借りしながら、新潟大学で与えられた任を全うしていく所存でおります。どうか一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

小樽商科大学保健管理センター 教授
高橋　恭子（69期）

平成27年4月1日に小樽商科大学保健管理センター教授に就任いたしました。私は平成5年に卒業後、衛生学教室で齋藤和雄教授、藤田博美教授をはじめ多くの先生方にご指導をいただきました。平成12年より札幌市役所に15年間勤務し、その間は地域保健の業務において同窓の多くの先生方に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。今後は、学校保健の分野で健康で社会に貢献できる人材の育成のために、精進してまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

＜学内･院内人事異動＞

＜辞職＞

平成28年3月31日	加藤　元嗣	(58期)	光学医療診療部准教授(国立函館病院病院長)
	森田　研	(65期)	泌尿器科講師(市立釧路総合病院)
	大泉　聡史	(68期)	呼吸器内科学分野准教授(北海道がんセンター内科系診療部長)
	崎濱　秀康	(70期)	消化器外科Ⅰ特任助教(苫小牧日翔病院外科部長)
	木田　敦知	(71期)	麻酔科助教(整形外科北新病院麻酔科部長)
	細田　充主	(71期)	乳腺外科講師(砂川市立病院)
	佐藤　智信	(73期)	小児科特任助教(北見赤十字病院小児科診療部長)
	佐藤　大介	(74期)	医学教育推進センター助教(さとう小児科医院院長)
	下國　達志	(74期)	消化器外科Ⅰ特任助教(JCHO札幌北辰病院外科)
	宮本　大輔	(75期)	先進急性期医療センター助教(NTT東日本札幌病院)
	佐藤　暢人	(77期)	消化器外科Ⅱ特任助教(釧路市立病院外科部長)
	小山　貴弘	(78期)	産科助教(JCHO北海道病院産婦人科)
	猪又　崇志	(79期)	医学教育推進センター助教(北海道中央労災病院)
	真鍋　治	(80期)	核医学分野助教(小樽市立病院)
	廣谷　真	(会員2)	神経内科学分野助教(北祐会神経内科病院)
	松島　将士	(会員2)	呼吸器内科学分野助教(九州大学大学院医学研究院学術研究員)
平成28年5月8日	三田村　卓	(77期)	婦人科助教(函館中央病院)

＜任期満了＞

平成28年3月31日	本間　さと	(48期)	時間医学講座特任教授(札幌花園病院)
	松野　一彦	(48期)	検査・輸血部臨床検査管理医師(酪農学園大学)
	瀬谷　司	(52期)	免疫学分野特任教授(未定)
	田本　英司	(72期)	消化器外科Ⅱ特任助教(手稲渓仁会病院)
	敦賀　陽介	(75期)	消化器外科学分野Ⅰ特任助教(JCHO北海道病院)
	栗田　紹子	(76期)	精神科神経科助教(市立稚内病院)
	平田　健司	(78期)	核医学診療科特任助教(核医学分野特任助教)
	中野　史人	(79期)	神経内科特任助教(北海道医療センター)

＜採用＞

平成28年4月1日	松浦　亨	(55期)	企画マネジメント部特任准教授
	辻野　一三	(66期)	呼吸器内科学分野特任教授
	七戸　秀夫	(70期)	脳神経外科学分野特任助教
	角家　健	(71期)	整形外科学分野特任助教
	江川　潔	(74期)	小児科学分野助教
	朝比奈　肇	(75期)	内科Ⅰ助教
	杉田　純一	(77期)	血液内科助教
	畑中佳奈子	(77期)	コンパニオン診断学寄附研究部門特任講師
	石川　聡司	(78期)	産科助教
	平田　健司	(78期)	核医学分野助教
	若山　顕治	(78期)	消化器外科学分野Ⅰ特任助教
	浅野　毅	(79期)	整形外科学分野助教
	田中　公貴	(79期)	消化器外科Ⅱ特任助教
	柳　輝希	(79期)	皮膚科学分野特任助教
	吉田　雅	(79期)	消化器外科Ⅰ特任助教
	齋藤　仁志	(80期)	麻酔科助教
	菅野由岐子	(81期)	泌尿器科助教
	中井　正人	(81期)	消化器内科助教
	長谷徹太郎	(81期)	麻酔科助教
	成田　尚	(82期)	精神科神経科助教
	小林健太郎	(84期)	連携研究センター機能画像科学分野特任助教
	岩野　弘幸	(会員2)	循環病態内科学分野助教
	神田　敦宏	(会員2)	眼科学分野特任講師
	西浦　博	(会員2)	衛生学・細胞予防医学分野教授
	眞船　直樹	(会員2)	検査・輸血部臨床検査管理医師
平成28年6月1日	工藤　俊彦	(69期)	消化器内科講師

＜昇任＞

平成28年4月1日	大西　俊介	(70期)	消化器内科学分野准教授(消化器内科講師)
	丸山　覚	(71期)	泌尿器科講師(同科助教)

＜配置換＞

平成28年4月1日	清水　勇一	(64期)	光学医療診療部准教授(消化器内科学分野准教授)

＜第43期卒後49周年記念祝賀会のお知らせ＞

日時：平成28年7月17日(日)17：30から
場所：札幌プリンスホテル タワー 28階
　　レストラン「トレアノン」
　　〒060-8625　札幌市中央区南2条
　　西11丁目（電話）011-241-1111
問い合わせ先：青柳　俊、三上　一成

なお、出欠の返事をお願いする最終案内は6月に入ってからお届けしますが、皆さんのスケジュールに入れて下さるようお願いいたします。

三上　一成　　三上整形外科医院
mikami33@coral.ocn.ne.jp

＜北大医学部52期　卒後40周年記念同期会のお知らせ＞

日時：平成28年8月27日（土）18時～
場所：札幌市中央区北5条西7丁目2－1
　　京王プラザホテル札幌　22階
　　「ペガサス」

30周年記念の時は42人の参加でした。皆さん是非、奮ってご参加下さい。
尚、北海道マラソンの前日なので、交通・宿泊は早めに手配下さい。
（京王プラザホテル札幌は10室程度、確保しています）

幹事：福田　諭、櫻木範明、小林　仁、
　　中田康信
問合わせ：北大医学部　耳鼻咽喉科学教室（秘書：戸澤）
電話：011-706-5955
メール：psecr@med.hokudai.ac.jp

＜「東京フラテ会 夏の会」のご案内＞

夏のレジナビにあわせ、「東京フラテ会 夏の会」を下記のとおり開催します。
気軽な暑気払いの会ですので、皆様奮ってご参加ください。
なお、上京予定の学生さんにお声かけ頂けると幸いです。

東京フラテ会 会長
松谷 有希雄（51期）

日時：平成28年7月16日（土）　19時～
場所：銀座ライオン 7丁目店　2階個室
　　（予定）
　　東京都中央区銀座7－9－20
　　03－3571－2590
会費：5,000円～程度（医学生は、割引き）

事前の参加申し込みは不要です。

＜神奈川フラテ会総会のお知らせ＞

平成28年度神奈川フラテ会総会が開催されますのでお知らせいたします。

今年の講演は松浦信夫先生(39)にお願いしました。先生は23年の北里大と聖徳大でのお仕事を終えられ、また日本糖尿病学会の最高栄誉である坂口賞を受賞されて札幌に戻られます。この受賞は正に有終の美を飾るものであり、また我々の人生の範となるものです。次に仁保が自由診療と自由診療を求めて来院する患者とそれを施す医師のことなどをお話します。

一方、昨年は学生と研修生6名が参加してくれましたのでこれまでになかった感動の会になりました。今年も彼らが参加してくれます。彼らと共に松浦先生の受賞を祝い、そして懇親を深めましょう。皆様のご参加をお願いいたします。

記

日時　平成28年7月30日　17時30分
会場　横浜崎陽軒（横浜駅東口そば）
　　Tel：045－441－8880
会費　1万円
　　（学生は会費無料。
　　交通費を差し上げます）
講演1　松浦信夫元北里大医学部教授、
　　聖徳大名誉教授
演題　「温故知新（仮）」
講演2　仁保正和　仁保耳鼻咽喉科医院
演題　「自由診療－耳鼻咽喉科の場合」
＊詳細は「神奈川フラテ会Hp」をご覧ください。
＊出欠連絡先　仁保正和
　yh97vv@bma.biglobe.ne.jp
　Fax：045-311-2692

事務局からお知らせ

同窓会費について

○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。

同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入は次のいずれかの方法によります

①口座振替､②コンビニ納入､③銀行振込
※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。

○会費未納者と刊行物の送付

・未納会費が2年を超えると、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません。
・納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。

○会費免除者と刊行物の送付

・会則により、卒業後55年を経過した会員の会費は、翌年度から免除となります。
・36期生は平成28年度から、37期生は平成29年度の会費から免除となりますが、免除前に2年を超える未納会費があると、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません。

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では、会員のための「ドクター総合補償制度」を創設し、随時募集を行っています。

現在、本制度には500名近い会員の皆様が加入しており、大変ご好評をいただいています。

ドクター総合補償制度には「医師賠償責任保険（勤務医向け）」､「医療・がん保険」､「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので個人での契約に比べて割安な保険料で加入することができます。

ドクター総合補償制度につきましては、同窓会事務局にお問い合わせください。
　電話　：011-706-5007
　E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

ご寄付の報告とお願い

同窓会事業支援のため、次のとおりご寄付をいただきました。

平成28年1月8日

専門3期　鷲沢　篤郎様　金200,000円

以上、ご報告申し上げます。誠に有り難うございました。

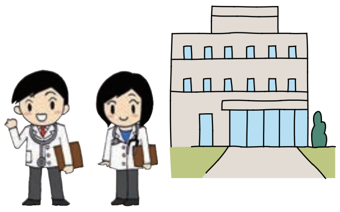
同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。

寄付者のご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感謝状を贈呈させていただきます。

ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。

電話　：011-706-5007

E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp



会員名簿の処分にお困りの方へ

同窓会の会員名簿は会員相互の親睦のために作成していますが、古い名簿の処分に困っているという声が寄せられています。

ご自身で焼却処分をできない方は、郵便又は宅配便により同窓会事務局へ送ってください。**なお、送料は各自でご負担願います。**

新刊書紹介

「健康に役立つ仕組みがわかる楽しいスキー」
幼児から高齢者まで

齋藤 和雄(35期)他著
東京印書館
¥2,052

この本は、平成5年から9年まで本学の医学部長を務めた齋藤和雄先生と、日本スキー学校協議会副会長の川瀬譲治氏という異色のコラボによるスキー本である。本書を読んで初めて知ったことだが、齋藤先生はスキースクールの校長も務めており、川瀬氏は朝里スキースクール副校長ということで、その辺りにコラボのキッカケがありそうである。

この本は、単なるスキー技術の解説書ではない。本書が扱う内容は、スキー技術の進歩と発展の歴史、心身健康の手段という視点からの年代別の適正なスキー指導、スキーに関係する神経系や感覚系などの身体の仕組みとスキーコントロール、スキーの準備と基本動作、カービングスキーや脱力系滑りなどさまざまなスキーの楽しみ方、などなど。つまり、本書の立脚点は、身体が柔らかい幼児から身体が硬くなっている高齢者まで、ケガのない安心・安全なスキーの正しい指導を目指すための指南書である。本書の特徴が現れている一節を紹介して、この書評を閉じたい。

「自然で楽なスキーイング」は重力を上手に利用することで、重心移動を可能にしてターンを連続させます。重力活用の滑りは、身体をゆるめ体幹で重力を感じとり、その重さを両脚で支えて滑るのが基本です。この自然で楽な運動は、中枢神経系、末梢神経系、自律神経機能全般の調整を可能にし、健康に効果的な身体運動となり、力みの無いスムーズな運動を可能にします・・・・・’

（会員2　渡邉雅彦）

「胃がんでいのちを落とさないために」

浅香 正博(48期)
中央公論新社
¥1,296

WarrenおよびMarshallによってHelicobacter pyloriが発見されてから30年以上が経過した。ピロリ菌を発見し、その胃炎、胃・十二指腸潰瘍の発生とのかかわりを明らかにした業績は、周知のとおりノーベル賞に輝いた。この成果からさらに、ピロリ菌の胃がんへの関与を明らかにする研究では、胃がん多発国である日本の研究者が大きく貢献している。著者の浅香正博名誉教授は、その中心にいた一人である。

本書は、著者の前作である『ピロリ菌と胃の病気』（中公新書）を発展させ、わが国から胃がんを撲滅するための方策を一般の人にも分かりやすく解説している。正確な知識を身につけ、胃がんでいのちを落とす人を一人でも少なくしようとする著者の思いが伝わってくる著作である。

浅香先生は、研究を進めただけでなく、日本ヘリコバクター学会理事長として、ピロリ菌除菌の保険適用とその拡大に尽力された。その舞台裏を含めた保険適用・拡大に至る経緯も本書の読みどころである。

私事で恐縮であるが、一昨年人間ドックの内視鏡検査で慢性胃炎を指摘され、ピロリ菌感染検査陽性を受けてピロリ菌の除菌を行った。幸い一次除菌治療が成功し、これで胃がん発症のリスクが大分減ったかと明るい気持ちになったのを覚えている。恩恵を受けた一人としても、多くの人々に勧めたい一冊である。

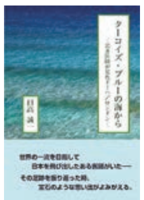
（51期　松谷有希雄）

「H. pylori除菌による胃がん予防戦略」
IARCワーキンググループ報告書8

浅香 正博(48期)監修
メディカルレビュー社 ¥3,456

今では胃がんの原因はH. pylori感染であり、除菌によって胃がん発症は抑制されることは広く知られるようになった。しかし、1994年のWHO・IARC（国際がん研究機関）によるH. pyloriは胃がんの確実な発癌因子との報告は、世界中の研究者に大きなインパクトを与えた。それから20年経過して、IARCは再び胃がんに関する報告書を発表した。その正確な翻訳が本書である。わが国のH. pylori研究者による分担和訳であるが、監訳はこの会議にわが国から一人参加した浅香正博氏である。国・地域での胃がん予防に向けての取り組み、H. pylori除菌による健康への効果と影響、H. pylori検診・治療計画の費用効果と実行可能性、H. pylori治療が胃がんを減少させる可能性に関する現在実施中および計画中の研究など21の章に分かれ、それぞれは完結した内容で読み応えがある。さらに、付録の訳者コメントを読むと日本と世界との現状がよく理解できる。報告書の結論は最初のサマリーに要約されており、H. pylori 除菌で胃癌の発症を3～4割減らせるので、H. pylori除菌による胃がん予防対策を検討するよう各国に求めている。わが国における胃癌撲滅戦略はChapter1.2に書かれているが、世界で初めてH. pylori除菌の胃がん予防効果を証明し、H. pylori感染胃炎への保険適用に尽力された浅香氏の考えが凝縮している。本書を読むと、わが国の胃癌撲滅への思いを新たにすることができる。

（58期　加藤元嗣）



「ターコイズ・ブルーの海から」
—若き医師が見たドーハ／ロンドン—

満岡 孝雄(50期)
柏艪舎　¥1,512

本書は若き医師夫婦と幼い子供達の一家5人が、初めは苛酷な環境の待つ中近東（ドーハ）へ、その後医局の厳しい研修を経て、今度はロンドンという新しい地へ挑戦する家族冒険物語エッセイである。もとより著者の満岡氏は不整脈専門医であり、世界の最先端を求めての留学ではあるのだが、幼い子供達にとってもいきなり現地校へ登校させるなど厳しい挑戦の日々であったろう。

一家の日常を支えた奥様にもタフが求められた筈である。実は氏のご一家とは20年近いお付き合いを頂いており、聡明で美しい奥様とも懇意である。当時は幼かった御長男の方にはかつて私のパソコンの手解きをして頂いた心優しい青年の思い出がある。

昨今日本の若者のチャレンジ精神の乏しさを嘆く事もあるやに聞くが、本書の文中には「多くの若者が海外に雄飛する事を願ってやまない」と、著者は今の若者を励ましている。本書を上梓した目的の1つであろうか。

氏は超多忙なロンドン研究中にも、オーケストラ、オペラ、バレエ鑑賞にご家族共々足繁く通った。ゴルフも度々楽しんだ様子。氏は人生を楽しむ事も忘れてはいない。文中では氏の家族への深い愛情がさりげなく描かれていて、エッセイらしい簡潔でリズム感のある文体には読んでいて飽きることはない。又、英米の医療保険の視点からも昨今話題の混合診療について一見を述べている。氏の一家は一年間のロンドン生活を終えて、次なる米国へと旅立つところで本書は終わっている。続編を望みたい。

（39期　佐々木武司）

「医療レジリエンス」
医学アカデミアの社会的責任

編集代表 福原 俊一(55期)
医学書院
¥3,024

昨年4月京都にてWorld Health Summit (WHS)が開催されました。2007年ドイツでのG8サミットにてスタートしたWHSは健康・医療の問題をグローバルな規模で議論する場として発展し現在は17組織にまで成長、京都大学は当初から日本唯一のメンバーとして参画しています。本書の編集代表福原俊一氏は本大会の会長で、日本で初のSchool of Public Healthとして2000年に開設された京都大学医学研究科大学院教授で1979年北海道大学医学部(55期)卒業で同窓会の諸先生にもなじみの深い先生です。

本書では京都大会で取り上げられたトピックスをそれぞれの専門家により解説が加えられ、加えて医療界のグローバルリーダーに福原俊一氏がインタビューした内容も紹介されこれを通じて同氏はこれまでの考え方を根本から見直す必要性を強調しています。諸々の問題に対応して行くには既存のシステム、考え方では対応は困難で変化に対応出来るレジリエンシー（折れない力）が重要とし、社会的責任から医学アカデミアには構築の役割があるとしています。HIV、エボラを引用するまでもなく地域の問題も瞬時に地域、国を越えて世界へ拡がる時代です。2015年京都WHSで討論され、エキスパートインタビューも盛り込まれた本書は私達が同時にグローバルシチズンとしても考えなくてはならない事を多々含んでおり、その理解こそがレジリエンスに必要な事も教えてくれる書です。

（40期　小柳知彦）

「大動脈弁形成術のすべて」
國原（くにはら）　孝（たかし）(67期)他編集
文光堂
¥9,180

本稿は、さしあたっては対象が循環器系の医療者に限定されてしまう紹介であることをお詫び申し上げる。私が知る限りでは、本書は大動脈弁形成術に関して書かれた本邦では初めての成書である。医局の先輩でもある編者の國原　孝医師は、大動脈弁形成術で世界的に有名なドイツのSchäfers教授の下でこの術式をマスターし、現在は大動脈弁形成術の第一人者として全国を奔走している。本書では、これまで外科医の経験と感覚のみの、いわゆる名人芸的に行われる傾向があった大動脈弁形成術が、理解しやすい理論をもとに理路整然と体系化されて描かれており、敬遠しがちであった本術式を実践する意欲を湧かせる内容である。解剖から始まり診断、術式の詳細はもちろん、実臨床に即して症例検討までカバーしている。この分野のパイオニアを紹介したコラムも興味深い。僧帽弁形成術が標準術式となってから20年以上を経て、ようやく大動脈弁形成術もパターン化され、標準術式となる予感を感じさせる。今後、大動脈弁形成術が浸透し、データが蓄積され適応がさらに明確になれば、人工弁置換術の成績を凌駕する日もそう遠くはないだろう。現役心臓外科医には必須の術式となる可能性が高く、一通りの術式をマスターした心臓外科医のみならず、研修医、さらには循環器内科医、臨床工学士、手術室看護師には是非御一読されることを勧める。

（70期　深田靖久）

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

○主な活動内容

・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：平成28年は第91巻）
・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）
・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

※　北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。
　本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況（平成28年3月31日現在）

・一般会員 735名　（年会費　4,000円）
・学生会員　11名　（年会費　1,000円）
・特別会員　76団体（年会費 25,000円）
・名誉会員 120名

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。
なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。
入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○「北海道医学雑誌」の原稿募集

・募集する原稿は、「原著論文」「症例報告」「総説」「速報」「学位論文」「学位論文の要旨」「BAY(Best Articles of the Year)」「研究会抄録」「談話会抄録」等です。
・「教室だより」「海外だより」等、論文以外の投稿も歓迎します。
・投稿者は北海道医学会会員であることを原則とします。
・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

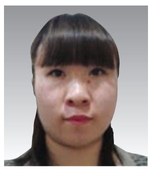
○お問い合わせ先

北海道医学会事務局
電話　：011-706-5007
E-mail : digakkai@med.hokudai.ac.jp

平成28年度　同窓会員名簿記載事項確認のお願い

本年度は、名簿発刊の年に当たっており、11月下旬の発送を予定しております。**最新登録データは、新聞に毎号同封しております「登録情報変更届(兼宛名台紙)」あるいは「コンビニ払込票(兼宛名台紙)」右上の「住所登録内容確認」部分に印刷しております。変更等がございましたら、今回の同窓会新聞に同封いたしました最新の「会員登録情報変更届」で、9月30日(金)までに事務局までお知らせください。**（FAXやE-mailでも結構です。）ご返信のない方につきましては、訂正変更がないものとし、同窓会員名簿に従来からの登録データを掲載させていただきます。
住所変更等には可能な限り対応いたしておりますが、期日以降にご連絡いただきました場合、名簿の印刷には間に合わない可能性がございます。申し訳ございませんが、その旨ご了承ください。
また、名簿の校正は、各期評議員(予備評議員)あるいは各期の担当者が、自分の卒業期のみを担当しております。会員名をかたる偽の問い合わせには、くれぐれもご注意くださいますよう、お願い申し上げます。

北海道医学会事務局職員の紹介



奥田靖子さんは、1年間仕事をしていただいた福島三智子さんの後任として、新しく4月から仕事を引き継がれております。北大遺制研で5年間仕事をされていました。
趣味は食べることとお料理で、陶芸にも通っているそうです。また、動物が好きで猫を1匹飼っているそうです。
不慣れな点が多々あることとは思いますが、皆様、どうぞよろしくお願い致します。

同窓会費の納入は口座振替で

同窓会費の納入方法は、①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかです。
とくに①口座振替は、店頭へ出向く手間が省けます。また、納入忘れがないのでとても便利です。
口座振替を希望する方は、同窓会事務局にお申し付けください。
電話　：011-706-5007
E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

ご逝去者

新聞153号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏　名	期	御逝去年月日	氏　名	期
平成27年			2月1日	梶井　正	29
9月27日	吉岡　昭	30	2月14日	露口幹彦	専新7
10月2日	小田嘉治	25	2月19日	森本義雄	25
11月6日	鈴木　功	専4	2月22日	芝木秀俊	30
12月10日	高須　滋	33	2月24日	小笠原正昭	28
12月18日	山本俊一	35	3月12日	白井俊一	39
12月28日	飯田喜俊	28	3月28日	藤田正和	33
12月31日	守　昭夫	39	4月4日	佐々木英制	32
平成28年			4月14日	平塚　勇	専5
1月1日	遠藤紀康	専旧6	4月17日	八百坂　透	45
1月18日	渡邊雅敏	27	5月4日	高桑栄松	17
1月20日	島津　孝	44	5月10日	小田　稔	34
1月20日	三野昭三	専旧7			

一面の写真説明

「穴滝」

鈴木　大介(76期)

小樽市内を流れる勝納川の源流付近に、知る人ぞ知る秘境の滝がある。その名も「穴滝」。岩場にあいた大きな洞窟の縁から滝が落ちるさまは、いささか霊的な雰囲気すら感じてしまうが、苔むした岩肌に流れる清流が夏の暑さを吹き飛ばしてくれる。ここからは塩谷丸山や遠藤山まで縦走登山もできるので興味のある方は訪れてみては如何だろうか。

編集後記

同窓会新聞154号をお届けします。
本号も内容盛りだくさんとなりました。同窓会新聞は年に3回発行しておりますが、この時期の号は新入会員の紹介、受賞のお知らせや年度毎の報告が集中し、通常の6ページと比較し倍の分量となっています。今回も原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。
編集委員会で記事の内容を考えて、各先生方や学生さんに原稿の依頼をしておりますが、我々が知らない、ぜひ同窓会員にお知らせしたいこともたくさんあるのではないかと思います。
同窓会新聞に関するご意見やご感想、ご寄稿は同窓会事務局（1ページの一番上に連絡先があります）までお願いいたします。

（80期　木佐健悟）

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。
http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/news/index.htm

印刷所　大日本印刷㈱　〒065-0007　札幌市東区北7条東11丁目1番1号　代表(011)750-2205